

平成27年8月10日号 (第152回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

連日暑いが続いています。こまめな水分補給や、適度に冷房を使用することで熱中症予防を心がけてください。

また夏休みということで行楽地に行かれる方も多いと思います。思わぬ事故やけがも多い季節ですので、救急セットや常備薬を準備の上お出かけください。



今回の阿伎留通信は、

－「夏に起こる皮膚トラブルー虫さされ」－

をテーマに皮膚科 平原 和久医師よりお話しさせていただきます。

皮膚科医は皮膚に出た症状を全て診察するため、診療する病気は多岐にわたっています。その中でも季節に関連した病気が多く、春、夏、秋、冬と四季にそれぞれの病気がある程です。特に夏は冬に比べて患者さんの数が増し、皮膚のトラブルが多く見られる季節となっています。皮膚のトラブルが多くなる理由として、肌の露出が増え、山や海、川などの自然に出かける人が多くなることが挙げられます。さらに環境因子として日差しが強いことや、多くの動植物や虫に接触することも理由のひとつです。今回は西多摩地域で遭遇しやすいハチやマダニについて取り上げてみます。

1. ハチ

人を刺すハチには様々な種類がありますが、特にスズメバチは攻撃性が強く、夏の終わり頃になると刺される人が多くなります。

ハチに刺されると、刺された所が腫れ、ズキズキとした痛みが生じてきます。その際は局所を流水や氷で冷やすことで、腫れや痛みが軽減します。また、ミツバチに刺された場

合は針が皮膚に残ることがありますので、針を除去しなくてはなりません。その後、多くの患者さんは数日で症状が軽快していきます。

しかし、一部の患者さんは刺された直後に、アナフィラキシーショックと呼ばれる重篤なアレルギー症状を引き起こします。一般に、ハチによるアナフィラキシーショックは過去にハチに刺された経験を持つ患者さんに起こります。症状は、刺された 30 分以内に血圧の低下（血圧の低下により気分が悪くなり、意識が遠くなることがあります）や息苦しさが出現します。

このような症状が生じた場合は、速やかに救急車を要請する必要があります。ハチのアナフィラキシーショックにより、年に 30 人程の人が亡くなられています。ただし、過去にハチに刺された経験のある人が再びハチに刺されても、必ずアナフィラキシーショックになるというわけではありません。

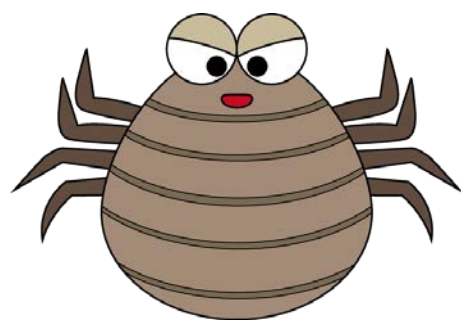


2. マダニ

「マダニ」という虫の名前を聞いたことがあるでしょうか。この虫はとても小さく約 2 mm 程の大きさですが、人を吸血します。マダニは蚊と異なり吸血時間が長く、7～10 日程となっています（吸血している間、マダニは同じ場所に付着し、1 cm 程の大きさとなります）。この間に無理にマダニを取り除こうとすると、皮膚を噛んでいる口器が皮膚に残り、炎症を起こすことがあります。

さらに、マダニの一部は病原体を持っており、大型の紅斑や発熱が出る場合があります（西日本では死に至る感染症の報告もあります）。そのため、皮膚に付いたマダニを見た際は皮膚科を受診するようにして下さい。

あきる野市や日の出町、檜原村といった近隣の市町村では山だけでなく、裏庭や畑にもマダニは生息しています。草むらに入る際は長袖と長ズボンをはき、袖口にも気を付けて、肌の露出を少なくしましょう。



阿伎留通信については、第 1 回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)